

## 第2号議案 2020年度事業計画および収支予算案

### I. 2020年度事業計画

#### 1. 定期刊行物および資料の刊行

##### (1) 定期刊行物

日本土壤肥料学雑誌（第91巻第2号～第6号および第92巻第1号の計6冊、A4判）、SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION（Vol.66, No.2～No.6およびVol.67, No.1の計6冊、A4判）を刊行し、2020年度岡山大会に際して日本土壤肥料学会講演要旨集（第66集）を電子版として刊行する。

##### (2) その他の刊行物

Springer社よりThe Soils of Japanを刊行予定である。

#### 2. 講演会および研究会等の開催、支援

##### (1) 「土と肥料」の講演会

2020年5月9日（土）、総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「食と農の将来を支える土と肥料：スマート農業と土づくり」とし、講演者と演題は、安岡澄人氏「肥料取締法の改正が目指すもの」および藤井弘志氏「ICT技術を活用した近未来の稲作生産システム」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

##### (2) 2020年度年次大会

2020年9月8日（火）～10日（木）、倉敷市芸文館・倉敷市立美術館（一般講演、シンポジウム、学会賞等授賞式・記念講演）において年次大会を開催する。学会賞等授賞式、受賞記念講演、懇親会は9日（水）に行う。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員に公募し、これを基に部門長会議で検討して設定することとしている。

学会賞等授賞式では、第65回日本土壤肥料学会賞3名、第25回同技術賞2名、第38回同奨励賞5名、第9回同技術奨励賞1名、第9回同貢献賞1名に各賞を授与する。また、貢献賞以外の各賞受賞者の記念講演を行う。論文賞2件およびSSPN Award 1件の受賞者については、各賞を授与するとともに、受賞記念ポスターを展示する。

##### 第65回 日本土壤肥料学会賞受賞者

- ・浅川 晋：水田土壤生態系におけるメタンの生成・酸化に関わる微生物の生態に関する研究
- ・俵谷圭太郎：菌根共生系のリン応答と持続的作物生産・環境修復への応用研究
- ・藤嶽暢英：腐植物質の分析法、特徴付けおよび反応性に関する研究

##### 第25回 日本土壤肥料学会技術賞

- ・柴原藤善：水田生態系における土壤微生物バイオマス窒素の動態解明と環境負荷低減技術の開発および琵琶湖流域における水質保全効果の定量的

## 評価

・須藤重人：農耕地温室効果ガスの高精度測定法開発と温暖化緩和策研究への活用  
第38回 日本土壌肥料学会奨励賞受賞者

- ・一家崇志：チャのゲノム情報整備と栄養生理学に関する研究
- ・泉 正範：オートファジーによる葉緑体の分解経路に関する研究
- ・田中伸裕：イネの無機栄養吸収蓄積と成長制御に関する分子生理遺伝学的研究
- ・李 哲揆：土壌中の有機物由来の炭素循環と、有機物施用による植物病害の抑止に関わる微生物の研究
- ・山本昭範：農耕地における一酸化二窒素の生成経路の解明と発生削減策に関する研究

第9回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・蓮川博之：水田農業における温室効果ガス排出量削減技術の開発とその定量評価

第9回日本土壌肥料学会貢献賞

- ・原田靖生：変革期における新たな学会運営に向けた諸対応

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・江口定夫、平野七恵：日本の消費者の食生活改善による反応性窒素排出削減ポテンシャルと国連SDGsシナリオに沿った将来予測
- ・南雲俊之、森田明雄：茶園のもつ二酸化炭素吸収源機能

SSPN Award 受賞者

- ・Yoko Masuda, Hideomi Itoh, Yutaka Shiratori, Keishi Senoo :  
Metatranscriptomic insights into microbial consortia driving methane metabolism in paddy soils

### (3) 支部大会等

- ・北海道支部：第20回日本土壌肥料学会北海道支部野外巡検(時期・場所未定)および2020年度秋季支部大会・支部総会(11月下旬～12月上旬、とかちプラザ(帯広市))を主催する。また、第1回支部評議員会(6月上旬 北海道大学)、第2回支部評議員会(11月下旬～12月上旬、秋季支部大会の昼休み時間)を開催する。
- ・東北支部：2020年度東北支部大会、支部役員会および支部総会を開催する(7/7～8 宮城県仙台市)。また、支部大会に際し、講演要旨集の刊行を予定。
- ・関東支部：関東支部大会、支部幹事会および支部総会を開催する(11月下旬～12月上旬の土曜日、埼玉県内)。
- ・中部支部：第81回中部支部総会、第100回支部例会を開催する(11月 金沢市内)。また、第166回支部評議員会(5月・名古屋市内)、第167回支部評議員会(11月中部土壌肥料研究会と同時開催 金沢市内)を開催する。
- ・関西支部：関西支部講演会(12月初旬)および支部役員会(講演会の翌日)を開催する(日程、会場は未定)。
- ・九州支部：九州支部例会、支部賞選考委員会、2020年度支部常議員会並びに支部総会を開催する(8～9月 宮崎県)。
- ・支部長連絡会：本部・支部間、支部間の連携促進のため、岡山大会期間に情報共

有と意見交換を行う連絡会を開催する。

### 3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第 66 回日本土壌肥料学会賞、第 26 回同技術賞、第 39 回同奨励賞、第 10 回同技術奨励賞、第 10 回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

### 4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連携および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い学术交流・国際交流を図る。

- ・第6回土壌分類に関する国際会議（ICSC：メキシコ・ケレタロ、4月）へ担当者を派遣する。
- ・日本地球惑星連合（JpGU）2020年連合大会セッション「Material transportation and cycling in aquatic ecosystems; from headwaters to coastal areas」（5月）を共催する。
- ・ヨーロッパ地球科学連合大会（EGU：ウィーン、5月）に代表者を派遣する。
- ・チリ土壌学会（チリ・サンチャゴ、5月）へのIUSS会長の出席を支援する。
- ・Global Conference on Sandy Soils（アメリカ・マディソン、6月）へ代表者を派遣し、IUSS会長の出張を支援する。
- ・第30回環境工学総合シンポジウム（6/24～26）を協賛する。
- ・第57回アイソトープ・放射線研究発表会（7/7～9東京大学弥生講堂）を協賛する。
- ・IUSS 中間会議（英国・グラスゴー、8月末～9月）へ学会代表者およびChair/Vice Chair担当の学会を派遣し、IUSS会長の出張を支援する。
- ・塩性土壌の修復に関する国際会議（中国・長春、9月）へのIUSS会長の出張を支援する。
- ・2020年酸性雨国際会議（Acid Rain 2020、新潟、10月）を共催する。

また、「国際土壌の10年（2015～2024）」における諸活動を進めるとともに、2019年度に開設したESAFSサポートオフィスHPを活用して情報を共有・発信する。これら国際交流を円滑に行うための寄付活動を継続する。

### 5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。また、「国際土壌の10年」に関連した事業を企画する。
- ・土壌教育委員会：①岡山大会において高校生による研究発表会を実施する（9/8～10）。②教員研修およびその他の普及事業を行う（時期・場所未定）。
- ・財政基盤整備委員会：①引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、収支バランスの改善を図る。②2019年10月の消費増税に伴い2021年3月末までが猶予期間となっている総額表示などへの対応について、関係

理事と連携して学会財政全般に配慮しつつ、検討を進める。

- ・ 広報：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②Facebook 等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロ 2020 にブースを出展する。④土壌教育委員会、部門長会議、岡山大会運営委員会、関西支部と連携し、岡山大会において「土壌モノリス展：美しい土の世界」を開催する。

#### 6. その他、本学会の目的達成のための事業

- ・ 外部からの顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・ 規程に基づき、若手正会員及び学生会員の海外学会参加渡航費の一部を支援する。
- ・ 各理事担当の年間業務を整理し、円滑化を図る。